

ジャズの楽しい音色に乗って 心地良いスウィングを

「音色に合わせて心と体がスウィングするような、楽しいジャズを伝えたい」と語るのは、ジャズギタリストの渡辺隆介さん（上場区出身）。

10月4日（土）町生涯学習センターで開催される「オータム・ジャズ・コンサート」に、ギターとサキソフォンとコントラバスのトリオで出演。ジャズの持つ豊かな響きの彩りで、甲佐町の輝く秋を包む。脱サラ後にピアノバーを経営していた父親の姿を見て

育った渡辺さん。「15歳のとき、そんな父親がかっこいい」と思ってた始めたギター。「20歳」ころからジャズを始め、のめり込んだ。父親の店に来るプロ演奏家を間近で感じる中で暮らしていたから、プロへの道は現実的な仕事として自然に見えていた」と振り返る。2005年には音楽を追及するためカナダへ渡り、ビッグアーティストの演奏に

触れて1年間滞在。帰国後は、さまざまなおセッションに参加しながらジャズを学んだ。「昔ながらの、50〜60年代のジャズが好き。カウント・ベイシーなどが表現する楽しさやハッピーがいい」と渡辺さん。ジャズギターの伝統に則ったアコースティックの持つ自然な音色で、心地良く歌うスウィングが演奏の持ち味。現在、九州各地を中心に精力的に演奏活動に励む。「プロになると、東京や海外を指して出て行く人が多い。自分は、地方にいても一流の人とツアーを開催したりCDなどを制作したりして、芸術家や舞台に立つ人たちが地方でも活躍できるようにという思いで活動している」と語る。「ジャズには筋骨ががない」と話す渡辺さん。「ほかのジャンルの音楽にはない、即興性の高いアドリブ演奏や目での合図で通じ合う演奏者同士の掛け合い、会場の雰囲気に合わせて選曲や演奏など、その瞬間にしかないジャズの音色の面白さ、楽しさを感じてほしい」と魅力を語る。



渡辺 隆介さん
Watanabe Ryusuke

〔上場区 出身〕

わたなべ りゅうすけ / プロジャズギタリストとして県内を中心に九州各地で演奏活動を行い、昔ながらのジャズギターの豊かな音色を届ける

広 報 こうさ

2014年（平成26年）10月号
通巻543号